

中国東北財經大学中国語研修始まる

～中国大連への第一歩～

鍋倉 聰 (経済学部講師)



開学式にて

本学の新しい動きとして、今回初めて行った「中国東北財經大学中国語研修」について紹介します。

本研修は、2006年2月18日から3月11日までの22日間、中国遼寧省大連市の東北財經大学で行いました。東北財經大学での研修は今回が初めてでしたが、歴史を紐解けば、本学が公式行事として中国大陸で学生研修プログラムを行うのは、確実に残っている記録としては、1938年の旧制彦根高商の修学旅行以来68年ぶりとのことです。

今回の研修には、経済学部生16人と教育学部生2人の計18人が参加しました。男女9人ずつで、三回生が2人、二回生が9人、一回生が7人でした。

学との間の友好関係に基づき、好意的な環境の下、こちらの希望通り充実したプログラムを全うすることができた、と言えます。なお、参加費用は、往復の航空料金、研修費（学費と校外研修での移動費入場料）、宿舍費を含めて13.8万円でした。

研修の中心は中国語学習です。中国語教育の専門機関である東北財經大学国際漢語文化学院で、漢語精読（中国語基礎）と聴和説（リスニング&スピーキング）の授業を平日の毎日90分行いました。これだけで、合計42時間に達します。同じ時間の授業を行うためには、週一限の通常の授業では28週間（2 Semester）要します。

さらに校外研修として、経済開発区、ITパーク、国有企業（大連機関車工場）、汚水処理場、二〇三高地、大連現代博物館等を訪問したほか、京劇を鑑賞しました。毎週水曜には中国経済・書法・文化の講義を各一回行いました。このほか、現地学生6人を、チューターとして付けてもらいました。交流を進めるには、やはり

学生どうしの交流が一番です。

宿舍の東北財經大学国際交流処外事公寓では、三週間を快適に過ごせました。リビングルーム備え付けのテレビを見るだけでも、それが中国語放送である限り、立派な語学学習となります。

24時間語学学習の機会とな



中国語の授業風景



宿舍（国際交流処外事公寓）の個室



彦根高商修学旅行以来の二〇三高地にて

り得ることに、海外語学研修の効果は見出せます。

本研修では自由時間をなるべく多く設けて、中国語を実践する機会を作りました。やはり街中で実際に使ってこそ言語学習だからです。実際、大連の街を研修の場とすることで、多くのことが得られました。一つ挙げると、中国の現状を目の当たりにできることです。今でも中国では人民服を着た人が自転車に乗って痰を吐いているなどと偏見を持っている日本人がいますが、そんな人は今の大連には一人もいません。おそらく、^{ちょんまげ}丁髷を結って街を歩く日本人がもはやいないのと同じようなものでしょう。とにかくこれからますます中国と関わらざるを得ない中欠かせないのは、中国の現状を実際によく見ることです。まさに百聞は一見に如かず（百聞不如一見）と言うとおりです。現状から目をそらせて偏見の中に安らぎを求めるようではいけません。

大連だけでなく、オプションツアーとして、瀋陽に日帰りで行きました。かつて奉天といった瀋陽は、大連から400km離れています。もし学生参加者が大連で暮らすだけで精一杯のようだったら、このオプションツアーは止めるつもりでしたが、大連での生活を余裕でクリアしている様子から、積極的にすすめることにし、研修参加者のうち15人が参加しました。



瀋陽故宮にて

冬の寒い時にわざわざ瀋陽を訪れる観光客は少なく、静かにたたずむ雪の中の故宮が印象的で、金色の登り龍がひときわ映えて見えました。片道4時間の列車で通ったのは、かつての満鉄の大動脈にほかならず、鞍山にある広大な製鉄所の脇を通るだけでも、「生命線」といわれた地を実感することができました。

今回の研修は、あくまで一つのきっかけにすぎません。これを第一歩として、今回の参加者が、今後交換留学生として東北財経大学で一年学ぶなど、中国での活躍の場を広げていくことで、今回の研修は初めて意味を持つのです。そのために、次のようなコースを用意していきます。

- ①滋賀大学での中国語学習1～②中国語研修参加～③滋賀大学での中国語学習2～④一年間の交換留学～⑤帰国後中国語を学ぶ後輩をリード～⑥卒業後中国関係等の分野で活躍

こうして育成される人材は、滋賀大学の掲げる国際化アジア云々という教育目標に合致するでしょう。

上記コースは既に機能し始めています。今回の研修を行うにあたって、昨年二月まで東北財経大学で一年間学んだ滋賀大学経済学部四回生が、説明会で自分の留学経験を語って研修参加を後輩に勧めてくれたほか、研修中にも卒業旅行を兼ねて駆けつけ、校外研修で通訳を務めるなどしてくれました。これは上記コースで言うと、④を経た学生が⑤を行ったことになります。同じ滋賀大生の身近な先輩が、中国人と中国語でべらべら話して通訳するのを目の当たりにすることで、自分も頑張ればここまでできるのだという現実的な目標を、研修参加者に明示することができたのでした。参加者は①②を経て現在③の段階にいますが、さらに④以降のコースを歩んでいてもらいたいと期待しています。

今後滋賀大学と東北財経大学との間の交流をさらにすすめるにあたっては、学生交流の果たす役割が大きいことは言うまでもありません。今回の研修を第一歩として、さらに両大学間の学生交流を積極的に進めていきたいと思えます。



大連京劇の主人公と



大連機関車工場にて。漢字の意味は「機関車はここから世界に向かって走る」